

【トップインタビュー】津波防災でにぎわい創出＝田村典彦・静岡県吉田町長

25/01/21 08:30 NG079

静岡県中部の沿岸部に位置する吉田町。面積約20平方キロの中で公共施設や交通拠点、企業などが全てまとまっている「ぎゅっとなまち よしだ」としてPRしている。また、津波防災とにぎわいの創出を進めており、田村典彦町長（たむら・のりひこ＝80）は「温暖で災害が少なく、交通の便も良い。コンパクトにまとまって町民の皆さんが豊かさを感じてくれる町だ」と魅力を語る。

町には、東名高速道路のインターチェンジがあり、富士山静岡空港の周辺に位置する。東海道新幹線が停車する静岡市へも車で約40分の距離だ。また、防災が町の振興に不可欠との認識で、東日本大震災を踏まえ、沿岸部の全域約5キロにわたり防潮堤を建設している。高さは1000年に1度と想定される最大9メートルの津波を防ぐ11.8メートル。「町に大津波の水を一滴も入れない。安全が確保されない限り、安心がない」と力を込める。また、「南海トラフ地震が起これば、国は小さな町の支援までとても手が回らないのではないか」と話し、「自分で生き残らない限り、見捨てられる」と危機感を示す。

吉田インターチェンジ周辺を核に、防災と地域活性化を図る「シーガーデンシティ構想」も推進している。うち、町の情報を発信する施設「北オアシスパーク」などが完成。他にも沿岸部に多目的広場を整備中で、にぎわいを生み出す場所になる。それぞれの施設は平常はイベントなどで使用し、災害発生時に防災拠点として活用する。「防災で安全が生まれれば企業がくる。人が集まり、豊かになる」と強調。人口減少対策としても「今やれることは、人が住みたいという魅力ある町をつくれるか、選んでもらえる町をつくれるかだ」と話す。

一方、町は大井川に面しており、リニア中央新幹線静岡工区の着工を巡り、川の流量減少などを懸念している。町の水道は大井川の地下水を使用。「トンネル掘削で地下水の水質変化や、水量減少が起きた場合、町は終わる」という。「有識者会議などが（工事の影響について）問題ないと言っても、本当にそうなのかという潜在的な不安は払拭できない」と指摘。「（リニア問題への対応を）スピード感をもって進めることは構わないが、情報を流域市町に降ろしてもらいたい」と県やJR東海に注文を付けた。

〔横顔〕町役場の1階に町長室、応接室がある。「来庁者が全て見える。有権者の視界にいたことが一番必要だ」と話す。「先人に感謝、後人に夢」という言葉を胸に町づくりを進める。

〔町の自慢〕「日本で一番いい町だ。コンパクトで企業が結構あって、それなりに暮らせる町はなかなかない」と話す。

（静岡総局・阿部慶太郎）（了）（2025年1月21日配信）



田村典彦・静岡県吉田町長